



日本マクロエンジニアリング学会 (JAMES)
2019年度冬季研究大会
**公民連携手法による
次世代人材育成に関する一考察**
-岩手県紫波町日詰商店街を事例として-

岩手県立大学
新田義修
2019.12.21.
日本工業大学 神田キャンパス



もくじ

- 1.はじめに
- 2.分析方法
- 3.主な結果と考察
- 4.結論



2



1-1 問題意識

- 紫波町は岩手県内一のベッドタウンであり、20代後半から30代とその子供というマイホーム購入世代において転入超過となっているものの、10代後半から20代前半では大幅な転出超過となっており、若者にとって魅力的な仕事が町内に少ないことが推察される。
- オガールエリアを中心に町の中央部では暮らしの機能が充実しているが、農村部において地域経済活動の停滞が顕著である。
- そこで、町では、大学生の実践型インターンシップ、地域おこし協力隊、リノベーションまちづくりなど、特に若年層をターゲットとした事業を展開してきた。
- 現行の行政主体の起業家育成には限界が見え始めたことから、地域の多様な主体と連携し、公民連携手法による新たなプラットフォームを創設する必要があると考えている。
- 現在、そのプラットフォームの拠点施設として、町の中央部にある日詰商店街において遊休不動産をリノベーションしたインキュベーション施設の整備を検討している。

2年連続1位「オガールプロジェクト」への行政視察は年間151件

資料：<https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/091800002/100200005/> より引用



オガールプロジェクトで整備した施設の一つ「オガールプラザ」の外観。紫波の農畜産物や加工品などを販売する「紫波マルシェ」、カフェ、居酒屋、眼科・歯科医院、図書館、各種スタジオなどが入居する複合施設（写真：日経BP総研）

1-2 既存研究の整理

- ソーシャルイノベーション
- ダイヤモンドモデル
- 社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）

イノベーション普及過程

- イノベーション普及過程の要素
 - ①受容, ②時間, ③ある特定のアイテム, ④採用の単位, ⑤チャンネル, ⑥社会構造, ⑥価値システム
Katz, Levin and Hamilton (1963)
 - ①イノベーション, ②コミュニケーションチャンネル, ③時間, ④社会システム
Rogers with Shoemaker (1971) Rogers (1983, 1995, 2003)
- バリューチェーン
 (ポイント: 不確実性を減少させる情報)
 - 不確実性と情報、採用の単位 (団体⇒個人)
 - 採用の単位: 年齢、教育、社会・経済的特性、コスモポリタニティ、マス・メディア接触、企業規模、組織の諸資源他)

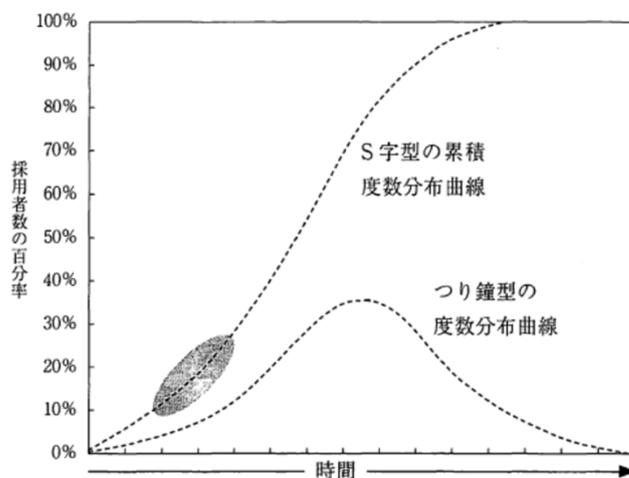


図1-1 つり鐘型の度数分布曲線とS字型の累積度数分布曲線
出所：Rogers (1983)、但し、図の説明部分は省略して引用。

課題の限定

- ①【ダイヤモンドモデル】公民連携手法による次世代人材育成のための新たなプラットフォームを創設するための手法開発
- ②【クラウドファンディング】拠点施設に県内外の若者や学生を呼び込み起業家を育成するための効果的な手段の解明

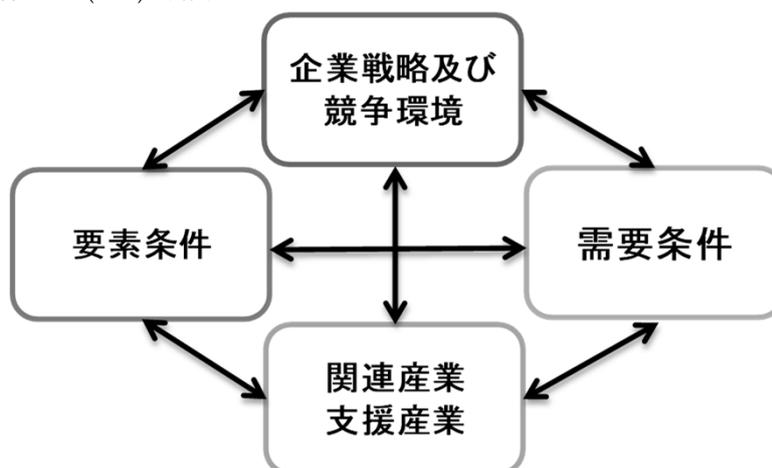
2. 分析方法

■ 目的：

- 現行の行政主体の起業家育成には限界が見え始めたことから、地域の多様な主体と連携し、公民連携手法による新たなプラットフォームを創設する必要があると考えている。
- 特にオガールから生み出されるネットワークにより紫波町に関心を持った人々に対し、想いを形にするための新たな一歩を踏み出すフィールドを提案できる環境を整える。

協力隊による地域づくり

資料:Porter(1999)より作成



2. 分析方法

- 使用するデータ
 - YOKOSAWA CAMPAS (Note)、紫波町資料等
 - RESAS (地域経済分析システム)、各種統計
 - ヒアリングデータ等
- 分析方法：
 - 質的調査 (面接調査) ・ 統計データによる分析

公民連携事業としての オガールプラザと横沢邸の比較

紫波中央駅前での大きな公民連携事業
【オガールプラザ】

日詰商店街での小さな公民連携事業
【横沢邸】

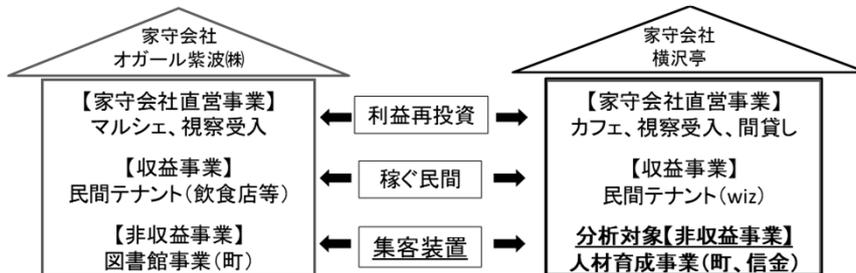


図1: 公民連携事業としてのオガールプラザと横沢邸(分析対象)の比較

資料: 須川氏作成

3. 結果と考察

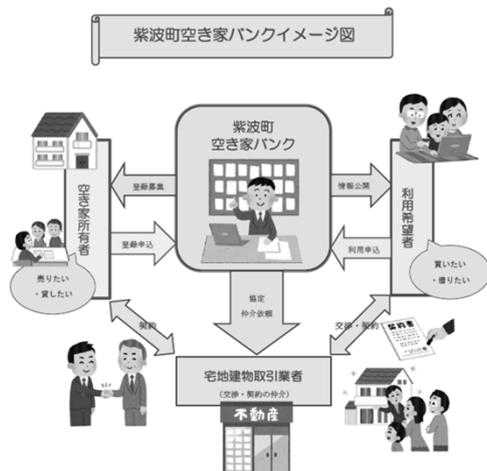
紫波町の人材育成政策



- インターンシップ及び地域おこし協力隊を新たな中心的担い手として位置づけ
 - 県外の大学生のインターンシップ受け入れ
 - 東洋大学による実習の開催
- 紫波町の新規参入者（交流人口）に関わる政策
 - インターンシップ受け入れによる交流人口増加
 - 主に関東圏他からの受け入れ⇒県内の積極的な受け入れ
 - 地域おこし協力隊
 - 都市部、農村部などへのネットワーク作り
 - 商店街の活性化、「サードプレイス」設立（本事例）

紫波町空き家バンクについて

資料：紫波町ホームページより引用 <http://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/3/2/akiya/4555.html>



- 紫波町空き家バンクは、空き家の有効活用を通して、紫波町への定住を促進し、地域の活性化を図ることを目的とし、空き家の売却又は賃貸を希望する所有者から情報提供を受け、空き家の情報をホームページ等に掲載して利用希望者に紹介する制度です。

設立の趣旨

YOKOSAWA CAMPUS PROJECT

- 「紫波町にある空き家をリノベーションし、カフェ兼コワーキングスペースを創るプロジェクト」

資料：<https://note.com/sasattalc/n/n709b264fcc1c> より引用

横沢亭（事例）

資料: https://twitter.com/yokosawa_campus/status/1194045896746393600/photo/2 より引用



内装（横沢亭）

資料: https://twitter.com/yokosawa_campus/status/1194045896746393600/photo/2 より引用

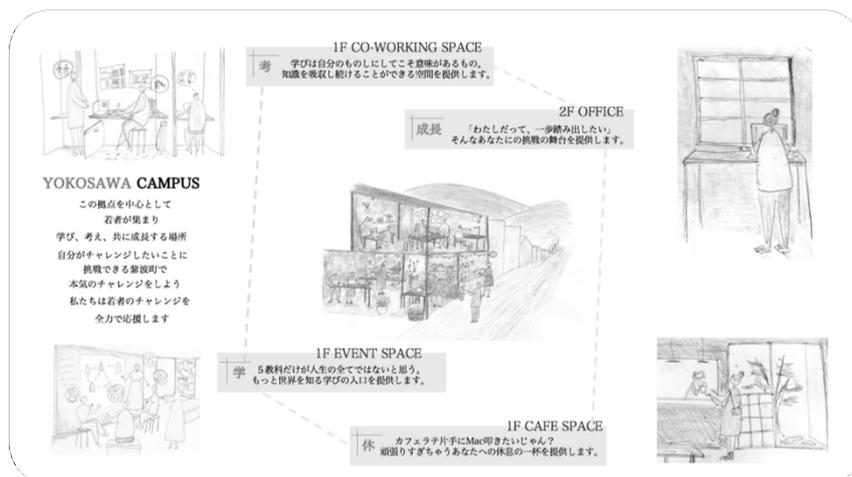


日詰商店街の公民館

資料: <https://note.com/sasattallc/n/nba59ebafcd2f7fbclid=IwAR3r1WfVUJD2laEwC9GWLKRNmTfKU74RGyAQ6k88Zof7B-7mubCetp0OZjc> より引用



「YOKOSAWA CAMPUS PROJECT全容」 (sasatta.llc社)



資料: <https://note.com/sasattallc/n/n709b264fcc1c> より引用

YOKOSAWA CAMPUS メンバー
@yokosawa_campus



資料: <https://twitter.com/ainanjo> より引用

代表 南條亜依社長

資料: <https://note.com/sasattallc> より引用



村松佳祐氏（都内金融機関）

資料：<https://note.com/sasattallc> より引用



菅原詩音氏（東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科）

資料：<https://note.com/sasattallc> より引用



長橋佳穂氏 (関東学院大学建築学部)

資料: <https://note.com/sasattallc> より引用



櫛田海斗氏 (東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科3年)

資料: <https://note.com/sasattallc> より引用



人材育成プラットフォームの形成条件

経済性効率

- 事例の選定
- 地域経済の展開概念の提示

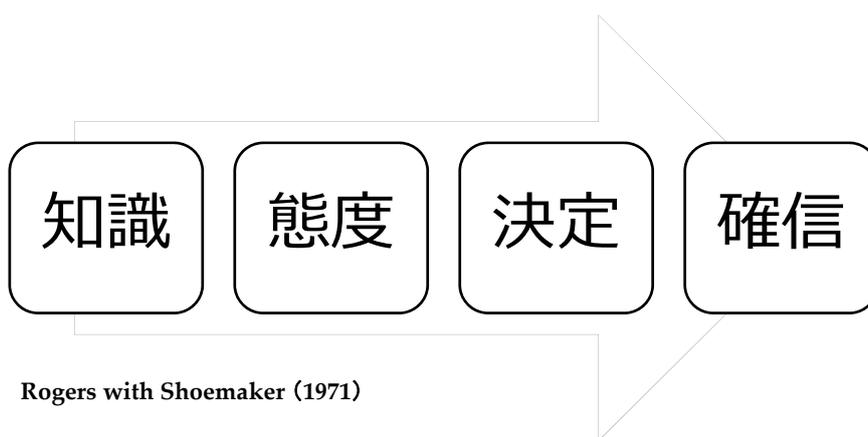
担い手としての 永続性

- 人材確保
- 組織の法人化

地域資源の保全

- 組織内外の合意形成
- 補助事業の活用

イノベーション決定過程



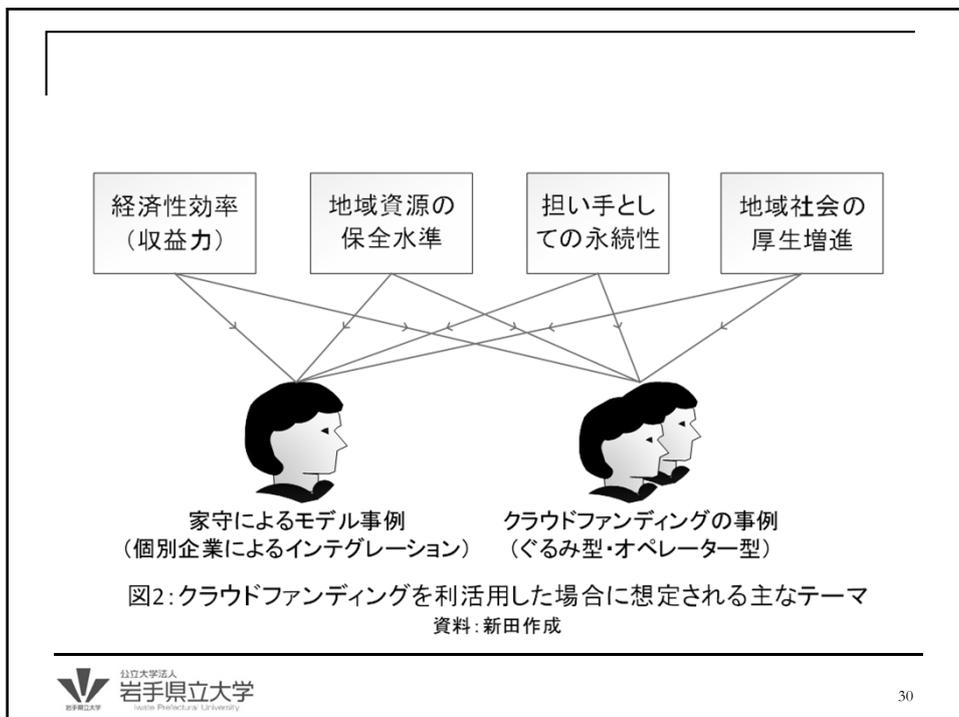
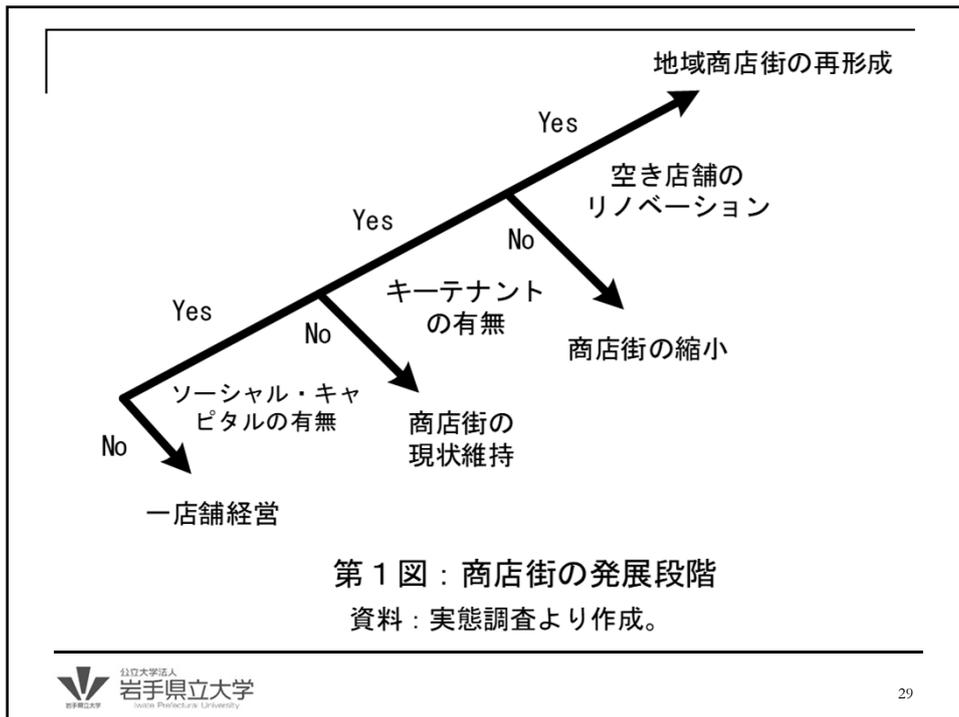


表1：若手の人材育成に活用できる岩手県，国内の主要なクラウドファンディング

企業名	特定非営利活動法人 wiz	株式会社CAMPFIRE (CAMPFIRE, Inc.)	READYFOR株式会社
ファンド名	いしわり	CAMPFIRE	Ready for
設立年	2014年4月1日	2011年1月14日	2011年3月 (会社2014/7/1)
理念	アクションすることを、若手のスタンダードに	資金集めを民主化し、世界中の誰しもが声をあげられる世の中をつくる。	誰もがやりたいことを実現できる世の中をつくる
所在地	岩手県大船渡市	東京都渋谷区	東京都文京区
資本金		24億4038万円 (資本剰余金含む)	634,985,620円 (資本準備金含む)
累計プロジェクト数		20,000件以上	9,000件 (若手193件)
支援者数		1,080,000	
支援資金総額		105億円超	70億円 (2018年10月)
従業員数	常勤4 非常勤5 (2018年4月)	108 (2018年12月)	80
事業内容	「いしわり」は、若手をよくしたい想いを仲間と協力して実現できる、若手に特化したクラウドファンディングサイト	クラウドファンディングプラットフォーム「CAMPFIRE」「FAAVO」「polca」、継続課金型コミュニティプラットフォーム「CAMPFIREファンクラブ」、評価型与信モデル融資「CAMPFIRE Bank」、コミュニティウォレット「Gojo」などの企画・開発・運営。	募集期間中に、支援された総額が目標金額を超えた場合に、プロジェクト成立となり資金を受け取ることができます。不成立の場合、資金を受け取ることはできず、支援者に全額返金されます。
形式	購入型 All or Nothing	購入型 All or Nothing	購入型 All or Nothing
手数料	20%	17%	17%

資料：いしわり, CAMPFIRE, Ready for ホームページより作成。

<https://ishiwari.iwate.jp/> <https://camp-fire.jp/> <https://readyfor.jp/>

注：購入型とは、プロジェクト実行者が何らかのリターン (対価) を提供し、それを購入することでプロジェクト支援を行うクラウドファンディングの方式である。

ソーシャル・キャピタルにおける組織類型及び機能

表1 ソーシャル・キャピタルにおける組織類型及び機能

項目	ソーシャル・キャピタルの類型	
	ブリッジング型	ボンディング型
つながりの強さ	弱い (エンベデッドネスの程度が低い)	強い (エンベデッドネスの程度が高い)
ネットワークの構造	Sparse, Open	Dense, Closure
メカニズム	ブリッジ、ブローカレッジ	信用、ノーム、相互監視と制裁
便益	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報・知が手に入る。 ・ネットワーク全体の情報の流れを制御できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常のビジネス取引ではできない取引が可能となる。 ・「安心」などが手に入る。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク全体で信用が醸成されにくい。 ・私的情報、暗黙知などは交換されにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリー・ライダー問題が派生しやすい ・遠くに伸びにくい。
主な理論	SWT理論、SH理論	ボンディング型のソーシャル・キャピタル理論
分析対象地	滝沢市 (都市近郊)	紫波町 (農村)

資料：入山章栄，「リアルとデジタルのネットワークで働く、真逆の力 世界標準の経営理論」(Kindle の位置No.199)。ダイヤモンド社。Kindle 版。図表3より修正の上、作成。

主な結論

- (1) 人材育成の現状と課題
 - ①流動人口減少、店舗減少による地域経済の低迷
 - ②所得の減少による担い手不足
- (2) 人材育成とソーシャル・キャピタル
 - ①Iターン新規参入者の受け入れ条件：インターンシップ活用による地域の認知度向上
 - ②ソーシャル・キャピタル（仮説）
 - 日詰商店街（ボンディング型）
 - YOKOSAWA CAMPUS（ブリッジング型）
- (3) 今後の課題
 - ①人材の集積と産業クラスターによる雇用創出効果
 - ②商店街及び人材育成に必要な事業再編に伴う不確実性回避への対策

引用・参考文献

- 高橋里咲子（2013）「農村地帯における地域の将来性に関する考察 -ソーシャル・キャピタルの視座から-」岩手県立大学卒業論文
- アンドリュー・ゾッリ（著）・須川綾子（訳）（2013）：『レジリエンス 復活力 -あらゆるシステムの破綻と回復を分けるものは何か』ダイヤモンド社
- 金澤悠介（2008）：「信頼と社会参加に関する地域比較：社会調査による検討」『東北文化研究室紀要』通巻第49集, pp.15-27.
- 稲葉陽二（2008）：『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社
- 稲葉陽二・藤原佳典（2013）：『ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立-重層的予防策とソーシャルビジネスへの展望』ミネルヴァ書房

引用・参考文献

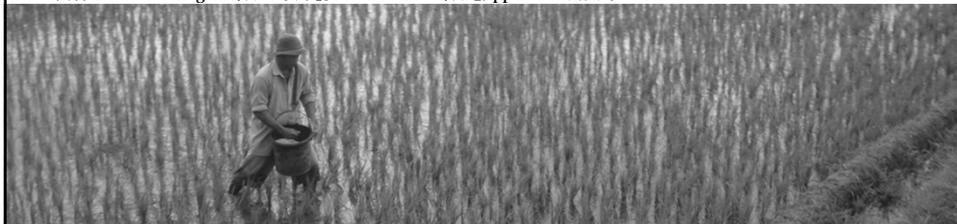
- 渡辺 享靖（2018）：「紫波町「オガール」、視察ランキングで2年連続1位」日経BP
<https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/091800002/100200005/>
- 熊倉功夫（監修）・米屋武文（編集）（2015）：『農の6次産業化と地域振興』春風社
- 高崎経済大学附属産業研究所（2011）：『ソーシャル・キャピタル論の探求』日本経済評論社
- 坂本治也（2010）：『ソーシャル・キャピタルと活動する市民』有斐閣

引用・参考文献

- 西野寿章（2008）：『現代山村地域振興論』原書房
- 谷口憲治（2012）：『中山間地域農村発展論』農林統計出版
- 田畑保・村松功巳・両角和夫（編）（1996）：『明日の農業をになうのは誰か-日本農業の担い手問題と担い手対策』日本経済評論社
- 田林明（2015）：『地域振興の農村空間の商品化』農林統計出版
- 福田武雄・下斗米昭一（1990）：『滝沢村の歴史—岩手県市町村地域史シリーズ21』熊谷印刷出版部
- 柳村俊介（1992）：『農村集落再編の研究』日本経済評論社
- 林直樹・齋藤晋（2010）：『撤退の農村計画』学芸出版社

イノベーションの属性

資料: Everett M. Rogers『普及の要素』『イノベーションの普及』, pp.1-52.より作成。



■ 主要な要素

- イノベーション
- コミュニケーション・チャンネル
- 時間の経過
- 社会システム

■ 普及速度の属性

- 相対的優位性
- 両立可能性
- 複雑性
- 思考可能性
- 観察可能性



公立大学法人
岩手県立大学
Iwate Prefectural University

37